

# 平成27年度 みくに保育園 自己評価表



平成20年に公示された保育所保育指針において、保育士等及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として位置づけられました。みくに保育園としましても、子どもの最善の利益を考慮しその健全な心身の発達を図るとともに、子どもの保護者に対する支援など社会的役割を果たす為、保育所の自己評価を行いました。今後は、評価の結果を踏まえ保育内容の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係を築いて行きたいと思えます。

茨城県結城市結城3073  
社会福祉法人 三国福祉会  
みくに保育園

## 第1章 総則

### 保育の基本となる考え方と保育所の役割、社会的責任

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\*日々の保育に於いて、保育指針を基本として考えながら行うように心掛けているつもりもだが、あらためてその内容をわかりやすく説明しようとする、少し戸惑ってしまう部分があった。そのことは「わかっているつもり」の状況であり、「本当に全て理解できている」ということではないと思うので、再度よく確認し、日々の保育に照らし合わせて行きたいと思った。

\*「はい」と答えられたものが少なく、勉強不足である事を実感した。保育指針をしっかりと目を通しておこうと思った。

## 第2章 子どもの発達

### 連続性に配慮した乳幼児期の発達の特性・発達過程

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\*子ども一人一人の個性・性格・生育歴・家庭環境など様々な環境を考慮しながらそれぞれに合った関わりを持っていくことがとても大切だと感じている。

\*遊びを発展させることはまだ自分の中で上手く出来ないと感じることもあるので意識していける様にしたい。また、子どもとの信頼関係築くことは大切なことだと改めて感じた。

\*子どもの発達や一人一人の状況など、自分なりに把握しているつもりだが、他の保育士と比べたらと思うと選択に迷った。また、遊びの八手には環境など努力しているつもりだが上手く出来るかという、まだまだだと思ってしまうことが多かった。

\*自分で危険を察知して、回避する能力を養えるよう、いろいろな遊びを体験させ生きる力が持てるようにしていくことが、運動能力を含めて必要になってくると思います。

\*同じ学年でも成長や発達は一人一人異なる。同じ生活リズム、流れの中でその子にあった保育が大切だと思う。また、成長だけでなく、情緒の安定変化を察知し、その心の奥で求めているものが何なのか、分かっていくことが大切だと思った。

## 第3章 保育内容

### 保育目標を具体化し、保育を養護と教育の両面からとらえ 「ねらい」「内容」「配慮事項」

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\*精神的な安定を図れるよう、一人ひとりが安心して過ごせるように、ゆったりと関わりあっていこうと改めて思った。本当にいけない時は分かりやすく叱るようにしようと思った。より一層、寄り添う保育をしようと思った。(子ども達が安心して過ごせるよう、また楽しく過ごせるよう)「ダメ」を必要以上に使わないよう気を付けたい。

\* 戸外で遊ぶ時間が子ども達にとって重要な時間だと考えているので、これからもできるだけ多く戸外遊びをして行きたいと思う。

\* 保育者として子ども達と接することもあれば、友達のように一緒に喜んだり、一緒に悲しんだりすることもある。また、集団でせいかつしていくには、みんなで団結した方が楽しく過ごせると思っている。そのため、全てに保育者が入るのではなく、なるべく子ども達で、解決できることは、そっと見守るようにしている。

\* 自然に触れて遊ぶことはあっても、文字や数、図形などに関心を持てるよう工夫をしたのか考えてみると、工夫が足りなかったと実感している。

\* 子ども達が学ぶための環境作りが出来てないことが感じられた。今後の課題として考える。

\* 言葉は意味を理解していても、言葉を発するのはとても難しく、なかなか出てくるまでに時間がかかってしまうことが多い、保育者として思いを受け止めじっくりと待つことが大切なのではないかと改めて気づいた。

\* 踊ったり歌ったりする表現を子ども達の手本となるよう、保育者自身が楽しく歌う姿を見せて子ども達に伝えていくことが大切なことと感じている。

\* 全内容・領域とも主体は子どもであり、今現在ある子どもの姿を正しく理解することが最も大切だと思った。子どもの姿をよく理解できなければ、どのような内容を考察しても、無意味なものになってしまう。専門的な知識及び技術を持つ保育者として、常日頃から子どもの姿、状態を観察し、的確な保育内容を考えて行かなくてはならない。

\* 子どもの興味関心に合わせた、おもちゃ、音楽を用意することが大切と改めて気づいた。

\* 乳児保育では、個々の発達に合わせた保育を考え行うよう心掛けている。第一にケガや事故などなく安全に過ごせるようにし、発達に合わせた関わりや配慮を、職員間で連携をしている。日々、成長を話し合い協力して保育することを、これからも大切にしていきたい。

\* 長時間ほいくということは、保護者と長い時間離れて生活しなければならないので、不安が大きいと思う。安心して過ごせるような環境や雰囲気作りを心かけていく。

\* 保護者に話す時、いつも難しさや親御さんの思いを考えると辛くなってしまいます。子どもはよく見てあげたいと思うのと、自分の言葉かけが他の子(周りの子)に影響を与えると強く感じます。

\* 製作などで女の子は〇〇色、男の子は〇〇色と決めてしまいがちであるが様々な色を用意し好きな色を選んでもらう。服装も性差への先入観が無くなる保育を心かけていきたい。

## 第4章 保育の計画及び評価

### 保育の全体を「保育課程」として明示し、保育の質向上のための指導計画の作成と、自己評価

#### 評価結果

#### 自己点検・自己評価の気づき

\* 保育理念、基本方針、保育課程など正しく伝えられるようもう一度、見直さなくてはいけないと思った。保育園に在園している子どもすべての心身の発達と、保護者に対する子育て支援が行えるよう、計画性のある保育を実践することが必要だ。

\* 指導計画を作成するだけでなく、それを実行し、子どもの発達向上に生かしていくことが大切であると思う。そして、保育士間で共通理解をし子どもの発達援助をより促していくことが重要であると思う。

\* 園の生活の中で、子どもがどのように成長し、またとくせいや個別での対応の仕方など、なるべく詳しく伝え、スムーズに学校生活が送れるように配慮したつもりでも、いざ学校での生活

が始まると、全く違った対応をされてしまい、結果として要録が全く生かされていないことも多いと思う。特に支援が必要な子どもに対しての申し送りは、何度も丁寧に行っていく必要があると感じた。

\* チェックをして迷うものがあった。自分の意見だけでなく、周りの意見も聞く大切さを改めて感じたので、少しの時間でも先生たちと話したりして、コミュニケーションを取りながら自己評価につなげていきたい。

## 第5章 健康及び安全

### 子どもの生命の保持と生活の基本となる健康と安全確保のための留意点

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\* 子ども達の健康面に関して、常に変化に気づけるよう、生活する中で心掛けている。保育者同士の共通理解、保護者への連絡・支援もやはりとても重要なことであると改めて感じた。保育を進めていく中で、まずは安全な環境の中で取り組むということを第一に考えている。  
\* 会話をしながら楽しい雰囲気の中で、食べることを心がけている。園で収穫した野菜が給食のメニューになっていることを伝え、少しでも食材・食べることに興味を持てるようにしている。また、苦手な食材でも、少し食べて味を知る機会を作ったり、言葉かけをして促し、無理に食べさせない。

## 第6章 保護者に対する支援

### 入所の保護者に対する支援、及び地域の子育て支援

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\* 保護者の質問等には、保育者の気持ちを汲み取り丁寧に対応する事が大切である。  
\* 園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、散歩の時など子ども達の手本になるよう明るく元気にあいさつをする。  
\* 子育て支援は年々重要視されていて、地域ぐるみで行っていけるのが、理想であるが難しい面がある。一歩外に出られない親たちへのアプローチを考えている。  
\* 家庭によって子育て観や養育方針が異なるが、なるべく親の思いを受け入れつつ、園の方針とも照らし合わせ、よりよい成長に繋げていければと思う。

## 第7章 職員の資質の向上

### 職員の資質の向上のための施設長の責務の明確化と研修等の必要性

#### 評価結果

##### 自己点検・自己評価の気づき

\* 研究会や研修に積極的に参加し資質の向上に努めるとともに、日々の保育の中でどう子ども

と向き合うか考えて行かなくてはならないと思う。

- \* 同僚たちから、自分の保育について、意見を聞く機会があると良いと思う。
- \* 報告・連絡・相談を大事にして保育を務めて行く。
- \* 日々の忙しさを言い訳にして、つい努力を怠りがちな自分だが今後も自己研さんに努めたい。
- \* 職員同士でのコミュニケーションは本当に大切であると思う、また自分を見直し反省があったら考え、明日の保育に生かしていけるよう、見つめ直していきたい。

## \* 園全体の課題・提案

- \* 卒園時までの見通しを持った保育計画のさくせい。
- \* 運動能力の低下に対し来年度は、運動遊びを園全体で話し合い多く取り入れる。
- \* 保育内容の中で、ねらいを年齢ではなくクラスごとにし、月ごとに前月の反省、ねらいの達成ができたかなど、意見交換を行い進めていく。
- \* 子どもの発達の中で、ひとりひとりの成長の発達段階を読み合わせや話し合いを行い知る。
- \* 個人差はありますが、各年齢により基本的目標があると目安になるのではないかと考えます。
- \* 職員会議の中で、保育の手引き、新保育指針など読み合わせをし、勉強する。
- \* 子どもを第一とし、職員間の共通理解をすべてにおいて行い、新任保育士の手本となるような行動をとる。
- \* 子どもの良い所をみのがさず、心から喜びほめる。
- \* 子どもの困り感をかんじとり、それを少しでもなくせるよう考え、行動に移し、一人ひとりが過ごしやすい環境を作っていく。
- \* 普段から笑顔でたくさん誉めることにより、自己肯定感を持った人にやさしい子どもを育てる。
- \* 職員間の連携及び各自の資質の向上に努める。
- \* 資質の向上について、自ら研修に参加希望したり保育技術のレベルを上げる。
- \* 園内研修を講師の先生を招き行う。
- \* 連絡事項・行事の内容については、職員全員が把握する。
- \* 防犯で、散歩に行っている時、(園外保育の時など)連絡手段を考える。
- \* 災害時の対応法を園全体で細かい部分の再確認をした方が良いと思う。
- \* 防犯の時の曲が、グラウンドにいると聞こえずわからないので、対応を考える。